

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4171700125		
法人名	有限会社 エムエス		
事業所名	グループホーム 私とゆかいな仲間		
所在地	佐賀県嬉野市嬉野町大字下宿甲4715番地5		
自己評価作成日	令和 6 年 9 月 24日	評価結果市町村受理日	令和7年6月30日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、クリニック・病院と併設しており、入居者様に急変等があった時は、早急に連絡を入れ対応できる体制が整っています。又、歯科や他部署との連携も取れており、入居者様の日々の状態の変化に関する相談や指導を仰ぐ事も可能です。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

近くには、嬉野温泉駅があり新幹線開通や医療機関の移転に伴い新しい住宅が増えている。ホームは法人のクリニックとフロアが繋がっており、看護師による24時間の医療体制や、理学療法士等による支援があり生活リハビリも充実している。また感染症予防についても法人の感染症対策に従いしっかり行われている。地域との交流については、コロナ禍前のように戻ることはできないが、食事やおやつ作りを楽しめるように職員と一緒に考えたり、家族と外出をして気分転換が出来る機会を設けたりと、日々工夫し対応されている。

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号		
訪問調査日	令和6年12月23日		

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	目に見える所に理念を掲げており、その人らしい暮らしが出来るよう情報を共有して、実践へとつながるようにしている。	理念は、見える場所に掲示しており、ミーティングの際に理念にそった支援ができています。どうか振り返りを行い、実践に繋げるように努められています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との付き合いは、まだコロナ等の影響で難しい所があります。消防訓練は、年に2回程実施しています。コロナやインフルエンザの影響も考慮した上で出来る限り地域との交流も図りたいところです。	感染症予防対策で法人の方針もあり、地域に積極的に出向いたり、ボランティアや実習生の受け入れも現在は行われていない。	感染症予防の方針から、入居者と地域との直接的なつながりは難しいが、事業所が地域行事に参加や協力する等、地域の方と繋がりが途切れぬような取り組みを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	11月下旬に秋の収穫祭が開催される為、行事に参加し地域の人々との交流の場を設けたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、運営推進会議を開催して介護保険の変更事項やグループホーム内の取り組みを報告しています。又、ご家族様の要望等もお伺い応えられるよう努めています。日々の入居者様の写真や動画も見て頂いている。	2ヶ月に1回開催され、区長、行政、家族の参加があり、ホームの取り組みの報告や意見のくみ取りが行われサービスに活かすように努められています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護相談員の受け入れを行っている。運営推進会議でも、市職員の方に参加して頂き意見を頂いている。市から案内の届く研修会等は、内容によっては参加するようにしています。	介護相談員の受け入れや生活保護課ケースワーカーとの連携ができており、日常的に協力関係ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修等には、積極的に参加するよう努めている。入退院会議へ参加し、身体拘束の状況や意見交換を行い軽減に向けて取り組んでいる。身体拘束・虐待の研修により、職員がその意味を理解しケアに取り組んでいる。	身体拘束を行う場合は、法人にて、代表者、専門職を含め毎週カンファレンスを開催し評価している。研修は、積極的に参加し、参加していない職員へも伝達を行い、正しく理解できるように努められています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	院内外の研修会に参加しており、WEBでの研修も視聴している。ミーティングにおいて、適切なケアについても話し合いの場を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	サポートすることにより、安心して過ごして頂けるよう職員が理解しケアに繋げている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際、個々に説明し同意を得ている。重要事項説明書の内容に変更があれば、事前に説明し同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱の設置をしている。御家族へ毎月お渡ししているお手紙にも、ご意見の用紙を同封している。面会・面談時に、質問や意見があった場合は、上司への報告を行い反映につなげている。	ホームに意見箱を設置したり、毎月家族へ手紙を送付する際に、意見用紙を同封し、意見を聞くように努められている。また、面会時にも声掛けを行い、要望を伺い、その都度、職員間で共有し迅速に対応されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング会議の場で提案できる機会を設けており、職員の意見や提案を聞いて反映している。	管理者は、日常の業務の中で個別に意見を聞き、会議の場でも、職員が意見や提案しやすい雰囲気を作るように心がけている。職員の意見や提案は、反映できるように取り組まれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	必要時には、各個人で相談を行っている。状況や意向を確認されながら対応されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的な研修の機会を設けている。又、S-QUE等WEB研修も受講して意識の向上に繋げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部での研修会等での同業者との交流があり、グループワークで意見の交換等を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	普段の行動や会話・体調を個人ノートに記録している。本人の思いを知り、要望を職員間で共有している。本人の意向や家族の意向を、出来る限り実現していけるよう周知し取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	体調不良や何かあった時だけでなく、普段の面会時や月1回の家族様へのお手紙で、近況を伝えるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・家族様・職員と意向や希望等、話し合いが出来る機会を作っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の個性や生活歴に考慮出来る事はして頂いている。出来ないことはサポートし、信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人にとっての、今の課題について一緒に考えたり、ご家族にもご本人の気持ちを伝え、出来る限り偏りのない支援につなげる努力をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	前日に予約を入れて頂き、状況を見極めながら人数制限、時間制限をし面会して頂いている。	感染症予防対策は、継続されており、面会、外出を行う事が出来ている。他科受診や美容室へ行く時に、家族と外食や親族との交流等関係が途切れないように取り組まれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お盆を拭いて頂いたり、洗濯物をたたんだりして頂いている。又、レクリエーションに参加して頂く等、入居者様同士が関われる環境を多く見つけ共同生活が送れるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	外来でお会いする事もあり、声を掛けて近況をお尋ねする等している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員が日々の会話の中で得た情報を、記録に残し情報の共有を行っている。困難な場合は、ご家族に協力をお願いし、より良いケアに努めている。	希望や意向を聞く場合は、返答しやすいように質問を工夫し、意思表示が難しい方は、日々の会話から意向を汲み取るように努められている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族の面会時やモニタリングの時にも、聞き取りを行うなど、これまでの生活の把握をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録や職員からの情報を共有し、入居者様の過ごし方を把握している。本人様の望みや意向も聞きながら対応を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族様の意向や要望を取り入れ、介護計画を行っている。定期診察時の医師の意見も反映している。	本人・家族から意向を聞き取り、かかりつけ医や職員からの意見を聞き、介護計画を作成されている。定期的に評価を行い、現状に即しているか確認されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は、体調面・日常生活に関する事を、個人ノートに記載している。日々の記録からも、問題点や様子を共有できプランの見直しが行いやすいようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の希望に沿ったサービスを提供しケアを行なう。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源としては、面浮立や大名行列等も含まれ、クリニックや病院の前でお披露目をして下さるので、見学でき参加しており、地域の方との交流の場を持っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	クリニックにて、2週間に1回の定期診察を施行。それ以外の体調不良にもクリニック外来へ報告し、受診を出来るよう体制を整えて、ご家族様へも受診後の報告を行っている。	入居者・家族の希望に応じて、かかりつけ医の変更を行う事ができている。しかし、殆どの入居者は、併設しているクリニックがかかりつけ医であり、定期受診や緊急時に対応されている。受診後は、家族へ状況報告がなされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホーム内の看護師に協力を得ている。また、クリニックの看護師とも連携を常に取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	クリニック・病院と併設しており、急変時には早急に対応可能である。又、情報交換も行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時の重要説明及び契約の際、計画作成担当者が取り組んでいる。	重度化した場合、医師から家族へ説明を行い、家族の意向を聞いている。また、その都度、方針を検討し、支援を行うように体制づくりがなされている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	クリニックと情報共有している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力のもと、年2回火災通報訓練を行っている。入居者様との避難誘導の訓練も行っている。	法人に災害対策委員が設置されており、災害時の協力体制ができている。年2回、消防署協力のもと火災訓練が行われ、避難方法等職員間で共有できているが、地域との協力体制は十分ではない。	運営推進会議には、区長、行政等の参加もある為、災害対策について検討する機会を設け、地域の状況に即した体制づくりが築けるよう期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格や性格・認知症の症状の違いを理解し、認知症があっても周りとの関わり方を考え、その人を尊重し、今出来る事を見つけていけるよう努めている。職員の接遇マナーに留意し、不適切な言動にならないように、互いに注意をしています。	一人ひとりのペースに合わせて支援を行い、プライバシーに配慮した言葉かけが出来るように、職員間で意識を高め、注意しあえるように努められている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の判断ではなく、ご本人の意思確認をし判断してもらっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の好み等できる限りの対応・入浴も決まった曜日は設定しているが、気分によっては入浴日を変更して対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の選択や希望は、出来る限りご本人にして頂いている。季節に合った衣類の交換なども、家族様にご協力をお願いしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日会等では、ご本人様のリクエストをお聞きし用意をしている。又、レクリエーションとしておやつ作りを実施しており、職員と一緒に作っている。	本人・家族へ入居前の嗜好品を聞いたり、入居者の誕生日には、リクエストを取り入れられている。おやつは、職員と入居者と一緒を作り、食事を楽しむように支援されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は、毎日記録に残している。摂取量の低下が見られたりした場合には、外来に報告し医師の指示を仰いでいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る方は、自分で行ってもらい、できない方には介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表から個々の排泄パターンを知り、その方に合った時間で声掛けしている。失敗のある方には、自尊心を傷つけないよう配慮しながら交換している。排泄支援・排泄用品については、職員間でカンファレンスを行っている。	入居時にオムツを使用されている場合でも、身体的に可能であれば、ポータブルトイレやトイレでの排泄が出来るように、自立に向けた支援に努められている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ご本人の好みに合わせた飲み物を提供している。体操や運動をし規則正しい生活を送れるよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが、ご本人が望まない場合は、変更を行ったり清拭で対応している。入浴は隔日実施。リフト浴の方は、週2回実施している。	入浴は、週3回～4回(リフト浴は2回)、午前中に予定している。また、必要な場合は、その都度入浴できるように環境は整えられており、柔軟に対応されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況を見て臥床時間を設けたり、夜間は入居者様のペースで居室に戻ってもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	排便・皮膚状態・食事摂取量・体調や行動の変化があれば、クリニック外来へ報告し、医師の指示を仰いでいます。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみやテーブル拭きをお願いしています。レクリエーションも行い楽しむ時間を持てるようにしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	院外の散歩等の実施。年に4～5回バスに乗って戸外へのドライブを実施。両グループホームの入居者様の交流の場を作り、リフレッシュにつながるよう支援を行っています。	桜やあじさいを見にドライブに出かけ、車内から季節を感じる事が出来るように努められている。また、家族の協力のもと、法事や食事へ行き、関係性が途切れないように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望される方には、支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に電話をかけたい時は、意向に沿っている。又、スカイフォンでテレビ電話も出来るようにしている。正月前には、年賀状をご家族にあてて書いてもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花をホールに飾っている。又、壁画も季節毎に替え、花作り等出来る事は一緒に作って頂いている。共有空間には、季節の壁画を飾り季節を感じられるようにしています。換気や掃除は毎日行ない体感にて温湿度調整も行い快適に過ごして頂けるよう配慮しています。	ホールには、季節ごとに飾り物をして、季節を感じられるように工夫されている。加湿器を設置したり、アルコールで手すりを拭き、感染症予防もしっかりされている。また、環境だけでなく、職員の動きや声のトーンにも配慮し、居心地よく過ごせるように対応されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った入居者様は、席を隣同士にしたりして会話がしやすいようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅で使用されていた家具やテレビ・装飾品などを持ってきて頂き、自宅に近い居室作りに努めている。ご本人様の希望で配置も行っており、安心して過ごして頂けるようにしています。	居室には、使い慣れた家具や仏壇等を持ち込まれ、本人の要望や心身の状況により、配置を変えたり安心・安全に過ごせるように努められている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室では、その方に合った動線の確認。カレンダーや日々の活動の確認表を貼り、自立した生活が送れるようにしています。		